第５回

でんきの礎

―振り返れば未来が見える―

One Step on Electro-Technology
- Look Back to the Future -

社団法人 電気学会
The Institute of Electrical Engineers of Japan

でんきの礎

―振り返れば未来が見える―

電気学会は、本年、創立120周年を迎えます。その間、日本の電気工学は多くの革新的技術を送り出し、人類社会の文化・文明に多大の貢献をしてきました。また、これらは将来の人間社会を導く発展の礎です。

この機会に、日本の電気工学の過去120年を振り返り、歴史的に記念される“モノ”、“場所”、“こと”、“人”を顕彰し、われわれの科学技術の未来への糧とすることにいたしました。

これまで100年余の科学技術は、「何ができるか」という数値目標を争ってきました。すなわち「いかに早く新幹線を走らすか」、「いかに小さい半導体をつくるか」などです。

今日、21世紀の科学技術は、そのような「何ができるか」を数値で争う時代ではなく「何をしたいか」、「何をすべきか」あるいは「何をしてはいけないか」を選択する時代になりました。研ぎ澄まされた科学技術が、人間の感性によって評価される時代が来ました。まさに、人類の文化の進歩です。

今後、電気工学は、“環境問題を解決し、美しい地球の上で、科学技術に支えられた知的かつ健康な生活を送ることができる社会をつくる”という人類共通の目標に向かって一層の貢献を続けていくでしょう。

電気学会は、創立120周年を記念して、清新な感性のもとに未来への一歩を踏み出します。

平成20年10月

第1回顕彰委員会　委員長

原島文雄

第５回　でんきの礎

平成 24 年 3 月
（顕彰名称 50 音順）

カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
モノ こと	NE 式写真電送装置	日本電気（株）
モノ こと	家庭用ビデオと放送番組視聴の実現	ソニー（株）
モノ	カドニカ （密閉型ニッケルカドミウム蓄電池）	パナソニックグループ　エナジー社 三洋電機（株）
モノ こと	PC-9800 シリーズ	NEC パーソナルコンピュータ（株）
モノ こと 場所	依佐美送信所と超長波による初の欧州との無線通信	依佐美送信所記念館（刈谷市）

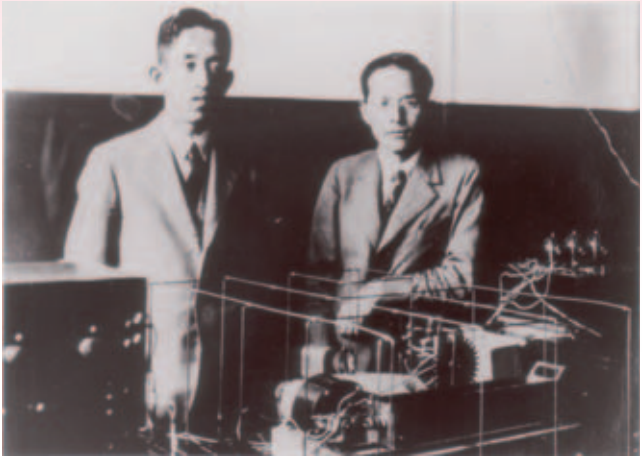
第５回「でんきの礎」　決定までの流れ

でんきの礎ホームページに「でんきの礎 候補の推薦のお願い」を掲載

平成 23 年 6 月 10 日	公募締切
平成 23 年 6 月	顕彰委員会より顕彰選考小委員会に精査要請
平成 23 年 6 月 ～平成 23 年 11 月	顕彰選考小委員会による精査（現地・現物調査を含む）
平成 23 年 11 月	顕彰選考小委員会より顕彰委員会へ精査結果答申 顕彰委員会にて審議・了承，理事会へ上程
平成 23 年 12 月	理事会にて顕彰対象決定 顕彰候補者に内定連絡
平成 24 年 1 月	候補者より受賞承諾回答入手，確定
平成 24 年 3 月 22 日	第５回電気技術の顕彰制度「でんきの礎」授与式にて 顕彰状および記念品授与

NE式写真電送装置

NE System of Picture Transmission



①

画像を電送しようとする試みは、電信技術の発達とともに19世紀中頃から始まりますが、実用的な画像電送装置の研究が進むのは、1920年頃からとなります。光電管や増幅用真空管の発達が実用化を可能にしました。国外では1924（大正13）年からの数年間でドイツのコルン式やシーメンス社とテレフンケン社の共同開発によるSKT方式、アメリカのATT方式などが相次いで開発されました。我が国でも日本電気の丹羽保次郎や小林正次らが研究を進めていました。

1928（昭和3）年11月10日に京都で昭和天皇即位の大典が行われることになりました。この模様をいち早く各地に写真入りで伝えることは、報道各社にとって自社の技術と新しい時代をアピールする良い機会でした。各社はドイツのシーメンス・カロルス・テレフンケン方式やフランスのベラン方式を導入し世紀の瞬間に備えました。その際、調子の悪かったベラン方式に代わって使用され、大成功を収めたのが丹羽保次郎らのNE式写真電送装置でした。電送結果は外国技術に比べても高く評価され、この分野の国産技術発展に道を開きました。NE式はその後の1930（昭和5）年から、一般公衆用として東京－大阪間の電送写真業務に使用されました。

☆顕彰先　：日本電気株式会社
☆所在地　：〒100-8001　東京都港区芝5-7-1
☆展示場所　：国立科学博物館　上野本館
〒110-8718　東京都台東区上野公園7-20
☆アクセス（最寄駅）：JR上野駅公園口から徒歩5分
☆ホームページ：http://www.nec.co.jp/（日本電気株式会社）
http://www.kahaku.go.jp/（国立科学博物館）

②

③

④

⑤

⑥

⑦

（写真提供：日本電気株式会社①、④～⑦、国立科学博物館②、③）

① NE 式写真電送装置と発明者の丹羽保次郎（左）、小林正次（右）

②③ NE 式写真電送装置の送信装置（左）と受信装置（右）
（初めて電送実験に成功したときの装置、1928 年 3 月末頃）

④⑤ 電送写真の原画（左）と受信画（右）（日本で電送が開始された頃のもの）

⑥1928 年 11 月 6 日付大阪毎日新聞号外に掲載された電送写真
（皇居より東京駅に向かわれる陛下、東京→大阪へ電送、1928 年 11 月 6 日）

⑦ 昭和天皇即位の大典の電送写真（京都→東京へ電送、1928 年 11 月）

家庭用ビデオと放送番組視聴の実現

Consumer-use Video Tape Recorder and
Realization of At-home Video Recording of Broadcast Programs

①

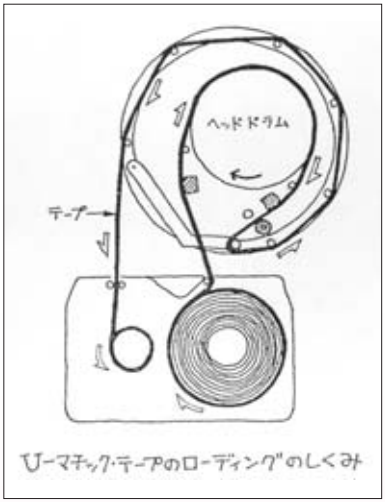
大型でかつ高価で放送業務用に限られていたビデオテープレコーダー（VTR）を、小型・軽量化して一般家庭でも手軽に使えるVTRをソニー㈱は相次いで開発・商品化し、家庭への普及を牽引しました。まず、回転２ヘッド、ヘリカルスキャン方式に加え、トランジスタの採用により小型化した世界初のトランジスタ式VTR「SV-201」を1961年に開発しました。さらに、1.5ヘッド方式でテープの幅が２インチのオープンリールを使用したオールトランジスタVTR「PV-100」を商品化しましたが、航空機への搭載など業務用に限られていました。このため、さらなる小型化をはかり、幅が２分の１インチのオープンテープを使用した、世界初のオールトランジスタVTR「CV-2000」を1965年に発売しました。テープをカセット化して、使い勝手をより良くしたUローディング方式によるU-matic方式のVTRも完成しました。これらの技術により本格的な家庭用VTRとして、Beta方式の１号機“ベータマックス”を1975年に発売しました。

“ベータマックス”を発売した翌年に、テレビ番組の製作・配給も行う米国の映画会社が、家庭におけるテレビ番組の録画は著作権侵害であるとして、ソニーを訴えました。これに対して、ビデオによる録画は放送番組をタイムシフトして視聴可能にするもので、複製ではないとのソニーの主張が受け入れられ、８年間にわたる「ベータマックス訴訟」に勝訴しました。この結果、家庭において録画が著作権侵害とならずに楽しめることとなり、VTRの実用的価値を大いに高めるとともに、VTRを一大産業に発展させる歴史的判決となりました。

☆顕彰先　　：ソニー株式会社
☆展示場所　　：ソニー歴史資料館
　　〒141-0001　東京都品川区北品川6-6-39
☆ホームページ：http://www.sony.co.jp/museum/
☆アクセス（最寄駅）：JR品川駅より徒歩15分

②

③



④

⑤

（写真提供：ソニー株式会社）
① 世界初のオールトランジスタ式家庭用ビデオテープレコーダー「CV-2000」
② 業務用オールトランジスタビデオテープレコーダー「PV-100」
③「CV-2000」学校で使用
④ ビデオカセットテープの“Uローディング”方式のしくみ
⑤ ベータマックス「SL-6300」

モノ

カドニカ（密閉型ニッケルカドミウム蓄電池）

Cadnica（Nickel Cadmium Battery）

①

“カドニカ”は、三洋電機株式会社（現パナソニックグループ　エナジー社　三洋電機株式会社）が、1961年に日本メーカーとしては初めて独自技術による開発に成功した密閉型ニッケルカドミウム蓄電池の愛称です。1963年に、“カドニカ”を搭載した業界初の充電式トランジスタラジオ「カドニカラジオ」が発売され、その愛称が由来となって、“カドニカ”の名は密閉型ニッケルカドミウム蓄電池の代名詞となりました。

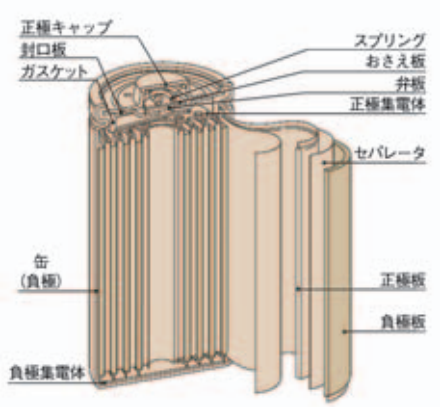
“カドニカ”は、正極にニッケル酸化物、負極にカドミウム化合物、電解液に水酸化カリウム水溶液を主としたものからなる蓄電池で、充電式で何度でも（現在販売されているもので約500回）繰り返し使用できるだけでなく、内部抵抗が非常に小さいために大電流放電が可能、充放電サイクル寿命が長い、長期放置に耐える、使用温度範囲が広い、などの特徴があり、現在でも、充電式電動工具や非常照明、通信機器など多岐に渡る用途において世界中で使用されており、2010年には累計生産110億個を達成するなど、その技術力と優れた品質は高く評価されています。

また、ニッケル水素電池やリチウムイオン電池など、現在主流となっている二次電池の先駆けであり、ブランド認知率85％の充電池「eneloop（エネループ）」の起源にもなった技術で、結果、携帯電話やデジタルカメラ、コンピュータなどのモバイル機器や、ハイブリッド自動車の普及などへとつながって、我々のライフスタイルを大きく変化させました。

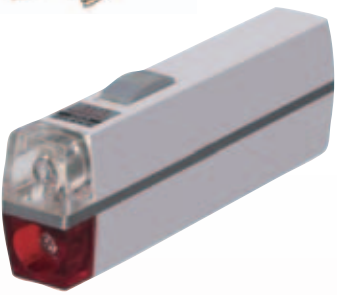
☆顕彰先　　：パナソニックグループ　エナジー社　三洋電機株式会社
☆所在地　　：〒656-8555　兵庫県洲本市上内膳222-1（淡路島）
☆ホームページ：http://panasonic.biz/energy/secondary_battery/index.html
☆アクセス（最寄駅）：JR神戸線舞子駅から高速バスで30分（洲本I.C.下車）徒歩5分

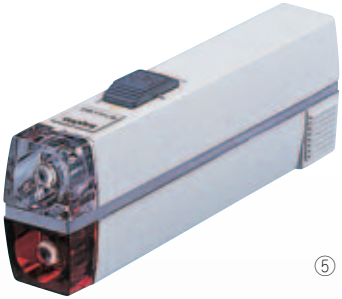
②

③



④





⑤

（写真提供：パナソニックグループ　エナジー社　三洋電機株式会社）

① 現在の“カドニカ”商品（例）

② “カドニカ”の愛称の由来となった「カドニカラジオ（8S-P25 型）」

③ 量産当初の“カドニカ”「円筒形電池（N-450AA）」

④ “カドニカ”の内部構造概略図

⑤ 1965 年発売、1966 年にグッドデザイン賞を、1993 年にロングライフデザイン賞を受賞した「カドニカライト（（左）発売当初：NL-421 型、（右）最終型：NL-K1D 型）」

ぴーしーきゅうせんはっぴゃくしりーず
PC-9800シリーズ

PC-9800 Series

モノ
こと

①

パーソナルコンピュータPC-9800シリーズは、日本電気㈱が1980年代初めから開発・販売してきたパーソナルコンピュータで、1982年に初代機「PC-9801」が発売された当初から、解析・シミュレーションなどに対応可能な高速演算機能や、漢字処理を含む日本語処理機能などを備えていました。これらの特徴から、解析時間が大幅に短縮されたため、日本の教育研究機関や企業の設計製造部門へ多数導入されました。PC-9800シリーズは、便利で使いやすい「もの」であるだけでなく、特に日本の大学の研究室には欠かせない存在となり、大学における研究・開発の質とスピードを飛躍的に向上させ、我が国の技術躍進に多大なる役割を果たしました。

初代機以降も、互換性を維持しながらカラーグラフィックス機能やアプリケーションの充実が進められたことから、教育研究用、ビジネス用だけでなく、一般ユーザーにも幅広く用いられるようになり、全盛期には日本国内で圧倒的なシェアを獲得し、「きゅっぱち」の愛称で親しまれる日本を代表するパーソナルコンピュータとなりました。また、周辺機器メーカー、ソフトウェアメーカー、販売店などのパソコン産業の形成にも寄与し、我が国におけるIT社会の実現に大きな影響を与えました。

☆顕彰先　：NECパーソナルコンピュータ株式会社
☆所在地　：〒141-0032　東京都品川区大崎1-11-1
（ゲートシティ大崎ウエストタワー）
☆ホームページ：http://www.necp.co.jp/（NECパーソナルコンピュータ）
http://121ware.com/navigate/learn/pcmuseum/index.html
（PC博物館）

②

③

④

（写真提供：NEC パーソナルコンピュータ株式会社①～④、読売新聞⑤）
① 初代機「PC-9801」
②「PC-9801」
　NEC パーソナルコンピュータ㈱ 米沢事業場ロビー展示
③④ PC-9800 シリーズ　発売当時のカタログ

依佐美送信所と超長波による初の欧州との無線通信

よさみそうしんじょとちょうちょうはによる
はつのおうしゅうとのむせんつうしん

モノ
こと
場所

Yosami Radio Transmitting Station and the First Wireless Communications between Japan and Europe with Very Low Frequency

①

②

第一次世界大戦後、国際通信の重要性が認識され、海外通信専用の大電力無線通信局の一つとして対欧無線局の建設を行うこととなりました。これを受けて、依佐美送信所は、1929年、愛知県碧海郡依佐美村（現刈谷市）に建設され、当時国際無線通信に有効とされていた超長波を使って、日本から欧州への送信を初めて行いました。②のように高さ250m・間隔約480mの鉄塔4対8基に懸架された送信空中線を設備し、発信機側は、三相誘導発電機・直流発電機・直流電動機を経由して当時世界最大規模の700kVA高周波発電機（出力周波数：5.814kHz）で発電した後、三逓倍回路による周波数（17.442kHz）を出力する構成としており、技術史的にも極めて高い価値があります。

その後、超長波無線通信から短波無線通信が主流となり、依佐美送信所は短波送信機を設備して超長波は補助的な役割となりましたが、欧州向けの無線通信の中心として重要な役割を継続しました。なお、超長波が水中に伝播する特性に注目され、第二次世界大戦中は日本海軍、戦後は米国海軍の潜水艦との交信にも依佐美送信所は使われました。

現在、250m鉄塔の最上部と基部を組み合わせて高さ25mの記念鉄塔として2号塔跡に、これに隣接して新築された依佐美送信所記念館に高周波発電機など超長波送信装置一式が公開されており、記念館のガイドはボランティアの方々によって支えられています。

☆顕彰先　：依佐美送信所記念館（刈谷市）
☆所在地　：〒448-0812 愛知県刈谷市高須町石山2-1
　フローラルガーデンよさみ内
☆ホームページ：http://www.fg-yosami.com/soshinjo.htm（依佐美送信所記念館）
　http://yosami-radio-ts.sakura.ne.jp/（依佐美送信所公式サイト）
☆アクセス（最寄駅）：JR東海道本線刈谷駅南口よりタクシーで7分

③

④

⑤

⑥

（写真提供：依佐美送信所ガイドボランティアの会①②、刈谷市③～⑥）

① 依佐美送信所本館（当時）

② 鉄塔（当時）

③ 送信機室内（当時）

④ 送信機室外観（当時）

⑤ 記念館の全景と記念鉄塔

⑥ 記念館内部

ここでは、第１回～第４回「でんきの礎」25件のリストとその写真を紹介しています（顕彰名称50音順）。詳細については、電気学会「でんきの礎」ホームページを参照下さい。また、過去の「でんきの礎」の顕彰先から、顕彰を受けてからの様子や現在の展示などについて紹介いただきました。

第１回　「でんきの礎」

平成20年10月

カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
場所	秋葉原（秋葉原駅周辺の電気街）	秋葉原電気街振興会 （東京都千代田区）
モノ	インバータエアコン	東芝キヤリア（株）
モノ	ガス絶縁開閉装置	三菱電機（株）（株）東芝 （株）日立製作所
場所	交流電化発祥の地（作並駅および仙山線仙台～作並間）	東日本旅客鉄道（株）仙台支社
こと モノ	500kV系送電の実運用	東京電力（株） 関西電力（株）
モノ	座席予約システム：マルス１／みどりの窓口の先がけ	（財）東日本鉄道文化財団 鉄道博物館
人 場所	志田林三郎と多久市先覚者資料館	多久市先覚者資料館
こと	電力系統安定化技術	東京電力（株）　中部電力（株） 関西電力（株）　九州電力（株）
モノ	日本語ワードプロセッサ	（株）東芝
人 場所	藤岡市助と岩国学校教育資料館	岩国学校教育資料館　P.16（下段）で紹介

第２回　「でんきの礎」

平成21年５月

カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
人 モノ	岡部金治郎と分割陽極マグネトロン	東北大学 電気通信研究所
こと	新幹線鉄道システム ～高速鉄道の先駆的研究成果～	（財）鉄道総合技術研究所
モノ	電気釜	（株）東芝 （株）サンコーシヤ
モノ こと	電子顕微鏡HU-2型（透過型電子顕微鏡）	（株）日立ハイテクノロジーズ （社）日本顕微鏡学会
モノ	電力用酸化亜鉛形ギャップレス避雷器	MSA（株） パナソニック エレクトロニックデバイス（株）

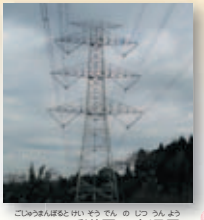
第1回（平成20年）

秋葉原（秋葉原駅周辺の電気街） 場所
AKIHABARA

インバータエアコン モノ
Inverter Air Conditioner

ガス絶縁開閉装置 モノ
Gas Insulated Switchgear

交流電化発祥の地 場所
（作並駅および仙山線仙台～作並間）
Birthplace of AC electrification in Japanese railways



500kV系送電の実運用 こと モノ
Epoch-making new technology: The First 500kV Transmission Line ever constructed in Japan

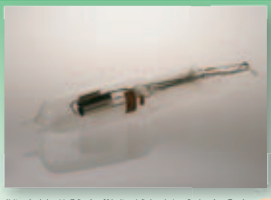
座席予約システム: モノ
マルス1/みどりの窓口の先がけ
MARS1/JR Reservation Ticket Offices "Midori-no-madoguchi"
Magnetic electronic seat reservation system

志田林三郎と多久市先覚者資料館 人 場所
Rinzaburo Shida & Taku city Pioneer Museum

電力系統安定化技術 こと
Electric power system stabilizing technology

日本語ワードプロセッサ（JW-10） モノ
Word processor

第2回（平成21年）



岡部金治郎と分割陽極マグネトロン 人 モノ
Kinjiro Okabe and Split-Anode Magnetron

新幹線鉄道システム こと
～高速鉄道の先駆的研究成果～
Shinkansen Railway System

藤岡市助と岩国学校教育資料館 人 場所
Ichisuke Fujioka &
Iwakuni Educational Museum of archive collection

電気釜 モノ
Electric Rice Cooker

モノ こと
電子顕微鏡HU-2型
（透過型電子顕微鏡）
Model HU-2 Electron Microscope

モノ
電力用酸化亜鉛形
ギャップレス避雷器
Gapless Metal Oxide Surge Arrester
for high voltage electric power systems

第３回　「でんきの礎」

平成22年３月

カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
モノ	ウォークマン	ソニー(株)
モノ	ノンラッチアップIGBT (絶縁ゲート・バイポーラトランジスタ)	(株)東芝
場所 こと	明治期の古都における電気普及の先進事蹟 ～琵琶湖疏水による水力発電および電気鉄道に関する事業発祥の地～	京都市上下水道局 関西電力(株) 京都市交通局 P.17(下段)で紹介
モノ こと	臨界プラズマ試験装置JT-60	(独)日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門 那珂核融合研究所

第４回　「でんきの礎」

平成23年３月

カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
人　モノ こと	加藤與五郎，武井武によるフェライトの発明と齋藤憲三による事業化	東京工業大学 ＴＤＫ(株)
人　モノ こと	古賀逸策と水晶振動子	東京工業大学
モノ　場所	５馬力誘導電動機および小平記念館	(株)日立製作所
人　モノ	高柳健次郎と全電子式テレビジョン	静岡大学　高柳記念未来技術創造館
モノ	電球形蛍光ランプ	東芝ライテック(株)
モノ	フルカラー大型映像表示装置 (オーロラビジョン)	三菱電機(株)

「でんきの礎」からのスタート

岩国学校教育資料館
学芸員　松岡　智訓

平成20年に第１回「でんきの礎」として「藤岡市助と岩国学校教育資料館」を顕彰していただいたとき、郷土の偉人である藤岡市助博士が顕彰されるということで、大変喜ばしい気持ちとなったと同時に、藤岡博士の業績に比べると、当館は胸を張って併記していただくにはまだ不十分なのではないか、と思ったことを覚えています。当時、藤岡博士の記念コーナーを設置して８年が経過していたものの、地元も含めた認知度や資料整理の状況など、藤岡博士の業績を紹介する館としては、まだスタートラインにも立っていないような状態だったのです。

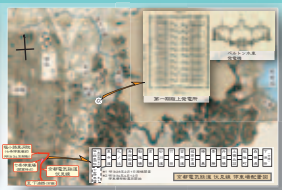
あれから約３年が経過し、色々な方々と出会って御指導いただき、資料整理も進め、当館もようやくスタートラインくらいまでは来ることができたのではないかと思っています。しかしながら、まだまだやるべきことは多く、3500点余りの貴重な資料を調査し、有効に活用していくことは、専任の学芸員がいない当館の今後の大きな課題となっています。そのような中、来館者の７割を占める小学生たちが見学後に送ってくれる手紙に、「藤岡博士のようになりたい！！」と書いているのを目にして、次の世代に「伝える」という館の大きな存在意義を感じています。

展示されている藤岡式電球の説明を熱心に聞く小学生たち

第3回（平成22年）

ウォークマン（TPS-L2） モノ
WALKMAN

ノンラッチアップIGBT モノ
Non-Latch-Up IGBT



明治期の古都における電気普及の先進事蹟 場所 こと
～琵琶湖疏水による水力発電および電気鉄道に関する事業発祥の地～
The electric vestiges of first stage spread at Kyoto in Meiji period

臨界プラズマ試験装置 JT-60 モノ こと
Breakeven Plasma Test Facilities JT-60

第4回（平成23年）

左：加藤與五郎、右：武井 武（フェライト発明当時）
世界初のフェライトコアを使用したコイル
齋藤憲三

加藤與五郎、武井武によるフェライトの発明と齋藤憲三による事業化 人 モノ こと
Invention of Ferrite Materials by Drs. Yogoro Kato and Takeshi Takei, and Their Practical Applications by Mr. Kenzo Saito

古賀逸策と水晶振動子 人 モノ こと
Dr. Issac Koga and High Frequency-Stability Quartz Oscillation Plates

5馬力誘導電動機および小平記念館 モノ 場所
5-horsepower Induction Motor and Odaira Memorial

高柳健次郎と全電子式テレビジョン 人 モノ
Dr. Kenjiroh Takayanagi and Electronic Television

電球形蛍光ランプ モノ
Self-Ballasted Fluorescent Lamps

フルカラー大型映像表示装置（オーロラビジョン） モノ
Full-Color Large-Scale Display (Diamond Vision)

日本最初の事業用水力発電

琵琶湖疏水記念館
嘱託研究員　白木　正俊

琵琶湖疏水記念館は、平成元（1989）年に疏水竣工100周年を記念して開館しました。館内には琵琶湖疏水の計画や建設に関する様々な文書・絵画・図面、疏水建設を推進した北垣国道や田邊朔郎等の資料を常設で数多く展示しています。また、疏水工事の苦労や疏水が京都市の近代化に果たした役割について、多くの来館者に分かりやすく理解いただけるよう、写真パネル・画像モニター・復元模型などを使って、工夫を凝らしています。

琵琶湖疏水は、明治23（1890）年の完成以降、工業用水車・舟運・精米用水車・かんがい用水・防火用水など多目的に利用されましたが、とりわけ、工事途中で新たに追加された水力発電は、事業用として日本最初のもので、明治後期の京都市の近代化に果たした役割は非常に大きなものでした。

明治24年12月、第一期蹴上発電所が操業を開始して以降、市内へ供給された電気は、紡績・織物・煙草等の各種製造工場に送られ、電灯や動力に使用されました。明治25年には京都電燈株式会社に供給され、市内民家の電灯や街灯をともしています。さらに明治28年には京都電気鉄道株式会社に供給され、その電気を動力源として京都駅と伏見油掛に日本最初の電気鉄道が走りました。

琵琶湖疏水記念館では、この当時、水力発電に使用されたペルトン式水車とスタンレー式発電機も展示しています。

展示されているペルトン式水車（左）とスタンレー式発電機（右）

第５回顕彰委員会

平成23年12月

委員長	長谷川　淳	北海道情報大学	第92代会長
委　員	野　嶋　孝	中部電力(株)	第93代会長
委　員	仁　田　旦　三	明星大学	第94代会長
委　員	田　井　一　郎	(株)東芝	第95代会長
委　員	松　瀬　貢　規	明治大学	第96代会長
委　員	藤　本　孝	東京電力(株)	第97代会長
委　員	鈴　木　浩	GEインターナショナル・インク	顕彰選考小委員会　主査
委　員	一　枝　圭　祐	三菱電機(株)	総務企画理事

第５回顕彰選考小委員会

平成23年12月

主　査	鈴　木　浩	GEインターナショナル・インク
委　員	石　井　彰　三	東京工業大学
委　員	大　来　雄　二	金沢工業大学
委　員	奥　山　雅　則	大阪大学
委　員	桂　井　誠	放送大学
委　員	加　藤　徹	中部電力(株)
委　員	小　坏　成　一	千葉大学
委　員	中　道　好　信	(公財)鉄道総合技術研究所
委　員	福　井　千　尋	(株)日立製作所
委　員	前　島　正　裕	(独)国立科学博物館
委　員	松　井　信　行	名古屋工業大学
委　員	谷　内　利　明	東京理科大学
委　員	山　本　正　純	三菱電機(株)
幹　事	小　林　良　雄	(株)東芝
幹　事	長谷川　有　貴	埼玉大学

途中退任

主　査	原　島　文　雄	首都大学東京
委　員	大　木　功	東京電力(株)

電気技術の顕彰制度『でんきの礎（いしずえ）』公募案内

電気技術の顕彰制度「でんきの礎」は、平成20年の創立120周年の記念事業の一環として設立されたもので、毎年数件程度を選定、顕彰しています。

「でんきの礎」候補の推薦は、会員資格の有無を問わずどなたでもお寄せいただけますので、下記公募要領をご参照のうえ、多数の候補を推薦いただきますようよろしくお願いいたします。

～ 公 募 要 領 ～

《目的》

電気技術の顕彰制度『でんきの礎』は、「21世紀においても持続可能な社会」を考 える上で、20世紀に大きな進歩を見せ、「社会生活に大きな貢献を果たした電気技術」を 振り返り、その中でも特に価値のあるものを顕彰することによって、その功績を称えるも のである。これによって、その価値を広く世の中に周知し、多くの人々に電気技術の素晴 らしさ、面白さを知ってもらい、今後の電気技術の発展に寄与することを目的とする。

《選定指針》

電気技術顕彰『でんきの礎』は、電気技術の隠れた功績・善行などを称え、広く世間に知らせるものであり、技術史的価値、社会的価値、学術的・教育的価値のいずれかを有し、略25年以上経過したものとする。

《選定基準》

少なくとも次の(1)～(3)の価値のうち一つ以上の価値を有するものとし、かつ(4)に該当するものとする。

(1) 技術史的価値

電気技術の発展史上重要な成果を示す物件、史料、人物、技術、場所などで以下に該当するもの。

1. 未来技術に貢献したもの(途中で埋もれた技術も含む)
2. 独創的で第一号になったもの
3. 世界的業績になったもの
4. 技術革新をもたらしたもの

(2) 社会的価値

国民生活、経済、社会、文化のあり方に顕著な影響を与えたもので、以下に該当するもの。

5. ライフスタイル、コミュニケーション方法を変え、新しい文化を築くなど、社会変革をもたらしたもの
6. 広く世の中に普及し、一般的となったもの
7. 電気に関連する産業あるいは事業に著しく貢献したもの
8. 世界標準になったもの
9. 循環型社会を支える技術のさきがけとなったもの

(3) 学術的・教育的価値

電気技術を次世代に継承する上で重要な意義を持つものとし、以下に該当するもの。

10. 新しい概念の提案、電気理論の構築を行ったもの
11. 学術として電気工学に貢献したもの
12. 電気工学の教育に大きく寄与したもの

(4) 共通として、略25年以上経過したもの

《顕彰対象カテゴリー》

顕彰の対象のカテゴリーは、『モノ』、『場所』、『こと』、『人』の4種類とし、国内の電気技術の業績に限定する。

《推薦者の資格》

会員資格の有無を問わずどなたでも推薦可。

《選考方法》

推薦された顕彰候補について、顕彰委員会にて厳正なる審査を行い、電気学会としてこれを決定する。

《顕彰件数》

毎年、数件程度を選定し、発表、顕彰状および記念品を授与する予定である。

《推薦期限》

推薦は随時受付（詳細はホームページ参照）

【推薦方法】

電気学会「でんきの礎」ホームページより、『「でんきの礎」候補応募（第1次応募）用紙』をダウンロードしていただき、必要事項をご記入の上、郵送またはEメールにて下記宛先までご提出下さい。

（郵送の場合）

〒102-0076 東京都千代田区五番町6－2
HOMAT HORIZONビル8階

（社）電気学会 総務課 顕彰担当

（Eメールの場合）

アドレス：jimkyoku@iee.or.jp
（電気学会 総務課 顕彰担当）

Subject ：顕彰候補の推薦

社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan

http://www.iee.or.jp/ishizue.html

でんきの礎　検索

2012年3月10日　発行
社団法人　電気学会
〒102-0076　東京都千代田区五番町6-2
TEL：03-3221-7312（代表）　FAX：03-3221-3704
ホームページ　http://www.iee.or.jp
©2012 社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan
6-2,Go-Bancho,Chiyoda-ku,
Tokyo 102-0076,Japan
TEL：+81-3-3221-7312　FAX：+81-3-3221-3704
URL：http://www.iee.or.jp
©2012 Japan by Denki-gakkai